

## 校長研修だより65

### 仕事も「経験」のひとつ

2022・6・28 重枝 一郎

私たちは、生徒に対して高価なものを与えない方がいいと思っている。私が学生の頃も高価なものを持たなくてもよいと大人から言われた。私も若いうちは高価なモノを与える必要はないと思っている。発達心理学的にもそれは言える。私自身も何かを買って間もないうちはそれについてばかり考え、そのモノに対して大きな喜びを感じている。しかし、時とともにそのモノの存在は徐々に思考の奥底に沈んでいく。喜びを感じる度合いはだんだんと小さくなっていく。そんな経験がみなさんにもあるのではないだろうか。

ところが、そんな作用を受けないモノも存在する。それは「経験」である。素晴らしい何かを「経験」すると、その喜びは頭の中にも心の中にもとどまり続ける。私も若いころに行ったインド旅行の話を授業開きの時に生徒に話していた。私が私に「経験」として投資した旅行になっている。生徒は卒業する際、私のインド旅行の話をよく覚えていいると言う。習った数学の話は覚えていないが（笑）。

モノの喜びは消えるが、「経験」の喜びは残る。だから、モノを買うよりも、何かを「経験」することに投資をした方がいい。その「経験」は長い間、頭にも心にも財産になる。

みんないつか大人となり、仕事をするようになる。実は、『仕事も「経験」のひとつ』だということ。仕事をするようになる则一日の大半は仕事になる。好きな仕事ならこんなに幸せなことはない。私たちの日常はそういう「経験」である。私たちはモノが与えてくれる幸せの効果を過大評価し、「経験」が与えてくれる幸せの効果を過小評価していることがある。モノで得られる喜びは時間とともに消えていくが、「経験」で得られる喜びはずっと心に残り続ける。私たちの仕事は、大金は稼げないが喜びをもたらす仕事である。同僚、生徒、学校関わる全ての人と一緒に喜びを感じたい。

私は、そういうマインドをもつために、一つの考えを大切にしている。それは、「自分を変えられても、他人は変えられない」という考えである。「自分を変えられる」ということについて話すと、「10年前（私ぐらゐは20年前）の自分のことを思い出してみよう」をしてみてもほしい。仕事や住まいや容姿といった外面的なことではなく、自分の性格、気性や価値観、好みなどが10年前（20年前）はどうだったかを考えてみてほしい。今の自分と比較して、その違いに0（全く変化なし）から10（まるで別人）まで点数をつけるとしたら何点だろう。おそらくだが、多くの人は「少しは変化した（2から4点）」という感じではなからうか。もちろんいろいろな人はいる。それでもある程度は変化するということになる。それでは「これからの10年（20年）後で自分はどれくらい変わるだろうか」という問いに答えるのは難しい。おそらく点数は低くなりがちである。先の自分に対しての変化はあまり考えにくい。でも、これまでがそうであったように必ず変化はあると思う。今変化し終えたというはずはない。将来の私たちの性格や価値観が、今と違っていることは確かである。

今、私たちは教師という仕事をしている。『仕事も「経験」のひとつ』である。毎日何事にも前向きに仕事をするのが私たちの「財産」になる。

本校には、「校長裁量研修費」というものがある。これを活用して、「経験」してほしい。